



同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎0489-77-5441



平成13年春、獨協埼玉中学開校

「思いを育む、判断できる若者を育てる」ことを目指して、来春、いよいよ母校に付属の中学校が開校します。既に校舎の増築工事に着手し、今年の総会の際にその一部を確認していただけたと思います。父母向けの説明会も数回、実施される予定です。この数年、埼玉県はラッシュといってもいいほど、私立中学開校が相次いでいるのですが、来年度は獨協埼玉中学校だけのようです。中学校の成功を期待したいと思います。

「手は握らずに」

中学校設置準備室主任 柳町 道廣

獨協埼玉高校も開校21年目を迎え、多くの卒業生を社会に送り出してきました。時々卒業生が訪ねてくる姿を見て、すぐには思い出せないほどに大人になっていることに驚くばかりです。年月の経つのは本当に早いものだと思いためて思いません。

さて、その獨協埼玉に中学校が併設されることになり、輝かしい歴史に新たな1ページが加わることになりました。紆余曲折はありましたが、おかげさまで新校舎も順調に工事が進み、カリキュラムや広報活動などのソフト面も学校内外の助言を得ながら徐々に軌道に乗ってきています。あとは、その6ヶ年をどのようになに有効に生かす教育が実践できるかにかかっていると言えるでしょう。

これまで本校が内外に掲げてきた教育姿勢の一つが、子どもの（あるいは子どもに対する）価値観をこちらの既成概念で縛り付けないということであった。そ

れぞれの個性・人格を尊重しつつ、真の自由とはどういうことなのかをしっかりと考えてもらう。その姿勢は中学が開校されても、本校の教育の基本であり続けることでしょう。しかし一方で、中学生はその個性や人格の形成期にあるともいえます。単なる自由放任に陥らず、本校の教育理念を貫く努力と責任とを、まさに突きつけられているのです。

よく、幼子の手をしっかりと握って、母親同士が立ち話をしてる光景を目にしますが、我々は、生徒の手は握らないつもりです。しかし決して生徒の行動から目を離さず、常に視界に置いて見守り続ける。そんな姿勢でこれからも生徒と付き合っていきたいと思えます。

いよいよ中学校出発

教頭 石井征次

獨協埼玉高等学校の立ち上げに関わって走り回った日々が懐かしい。それから君たちと出会った。爾来20年、念願の中学校の立ち上げのためにまた走り回っている。

中・高一貫教育では、しっかりと勉強させて6年後の進路保証を確実にすることとはもとより、「自由で伸びやか」という獨協埼玉の基本精神を背景に、「自ら考え判断することのできる」若者を育てたいと本気で考えている。

そういうことで、同窓生諸君の応援をお願い申しあげます。

獨協埼玉中学校完成予想図



魅力的な人

同窓会会長 玉山栄一



外国人は会話の中にたくみにジョークを盛り込み、場を盛り上げるのがうまい。ここでジョークの一つにタイタニック号の救命ボートの話がある。救命ボートに全員は乗り切れず、女性や子どもを助けるために、何人が犠牲にならねばならない極限状態だ。船長が乗客を集めて状況を説明し、はじめに英国人に「貴方はジェントルマンだ」と言うと、彼はボートを離れた。米国人には「貴方はヒーローになれる」と言うと、ガッツポーズで海に飛び込んだ。次にドイツ人に「これはルールなのだ」と言うと、納得して従った。最後に、日本人には「皆さんそうしていますよ」と言うと、周りを見渡しながら慌てて飛び込んだというのである。思わず笑ってしまうような小話だ。確かに日本人には、周りに合わせたり、

時流に任せるという傾向が強いように思う。隣の人ややる通り動いていけば無難だという習性のようなものがあるのだ。まあ考え方を変えれば、自己顕示に走らない、奥ゆかしさは古来日本人の持つ美德でもあるのだが。

昔から子どもの教育は「読み書きそろばん」を身につけさせることだと、寺子屋時代から言われてきた。「読む」「書く」はあるが、「話す」はない。「沈黙は金、雄弁は銀」とわざわざ発言しなくてもわかってくれる、あるいはいちいち言うとかどが立つと、黙っていることが多い。以心伝心というのは、民族も習慣も伝統も異なる人々の集まる国際会議や、交渉ではなかなか通用しない。グローバル化の時代において、国際社会での的確な自己主張や自己表現が、一段と重要になってきている中で、英語はうまいに越したことはないが、問題はしゃべる中身であり、感情論に走らず、聞く人に耳を傾けさせる内容と論議を持つことが大切ではないか。

来年からいよいよ獨協埼玉中学校が創設される。今後、卒業生が各分野で活躍されるためには、中学から自己主張の機会を多く与え、人を魅きつける「話し方」あるいは、人を魅きつける人間になるような訓練をしてほしいものだ。とは言うものの、私自身も下町育ちで、以心伝心タイプであるから、この先、意識していこうと思う。

卒業生の皆さんへ



教頭 河端行雄

拝啓

卒業生の皆さん、お元気で過ごしてはいかが。皆さんのわが母校、獨協埼玉高等学校は今年で開校二十一年目を迎えました。せんげん台界隈も年々歳々その街並みや様相を変え、昔、駅から学校までの道沿いに見受けられた葦の茂った原っぱも今では住宅やマンションや商店街に変わってしまいました。わが母校の白重の校舎や広いグラウンドはそのままですが、入学式の日、皆さんを迎えた校門脇の満開の桜は年輪を重ね太くなり、テニスコートの側にある銀杏はその実をたわわに実らせるようになりました。また、平成十三年から獨協埼玉中学校を併設することになり、現在着々と準備が進められています。来春からびかびかの中学一年生百六十名が皆さんと同じように校門脇の満開の桜に迎えられる入学してきます。

さて、三年前に卒業生の皆さんが同窓会を発足させ、今年十月一日に第三回同窓会が本校で開催されます。時々、お会いする卒業生の皆さんが学生や社会人となりそれぞれで活躍しているお話を聞くと、月日の経過をしみじみと感じさせられます。その会話に懐かしい名前が登場したり、パパやママになった話、また他府県で、あるいは海外で活躍している話と様々ですが！

テニス部の話で申し訳ありませんが、昨年十五年振りに県団体戦に優勝し、インターハイ(結果ベスト16)に出場することが出来ました。どの部活の後輩たちも獨協埼玉らしく各々の部活の実力相応に頑張っています。第三回同窓会にはクラブの仲間、遊び仲間、勉強の仲間(少ないかな?)、それぞれの仲間を募り是非参加し、思い出話に花を咲かせて下さい。

卒業生の皆さんの今後のご活躍とご多幸をお祈り申し上げ、筆を置きます。お会いする日を楽しみに！

卒業生登場

part 2



小中 スチュワーデス（現在、正しくは客室乗務員またはキャビンアテンダントです）になるきっかけからお聞かせください。

野口 最初は一般企業に勤めたのです。就職難で、やっと受かった企業だったので、仕事に費やす時間が、自分にはプラスに感じられなくなったのです。仕事で、緊張感や刺激を受けたいと思ったのです。このままだと今までしてきたことが活かされないような、自分がしたいこととはちよっと違うような、そんな考えが浮かんで、自分を責めるようになったのです。このままではいけない、何とかしなくちゃと思って。漠然と憧れていた仕事にチャレンジする気になったのです。それまでは「私じゃ駄目だな」と否定的に考えがちなのですが、やった結果が駄目でもがんばった自分を賞めてあげられるはずだと思っただけです。

小中 仕事に就くまでは迷っていませんでしたか。

野口 大学時代にもやりたいという気持ちはあったのですが、やはり華やかさというイメージと、実際とは違うのだなという自分の中で考えていました。自分にはこなせないと考えて、自分に自信もなかったもので、チャレンジもしませんでした。企業に入ってから、がんばってみようという強い思いが初めて生まれました。大学の時は全く違う、強い気持ちが生まれたので、それではそれを大切にしたいと考え、努力をし、運良くこの仕事に就くことができました。

小中 スチュワーデスの試験とは、具体的にどんなものですか。

野口 ほとんどが面接試験です。一次が五人対一人、二次が三人対二人で、細かなところまで見られ

ます。特に二次では、もう一人が話しているときの、聞く姿勢が見られているのです。相手の方に体を向け、笑顔で相手を打てるかなどです。二次は、英語とフランス感覚を確認し、飛行機に乗って仕事ができるかの簡単な身体測定がありました。

高田 専門学校に通っている方の話をよく聞きますが、

野口 私の周りもそういう人が多いですが、私は通いませんでした。大学へ通いながら、そういう学校を併用して苦学している人も多いです。私の場合、本気でなろうと思った時期が違ったことと、仕事もしていたので、通う時間がなかったわけですね。

小中 どのような試験対策をなさったのですか。

野口 会社へ行く電車の中で、毎日、英語を聞いて慣れおくことや、会社では新聞をしっかりとチェックすると決めていました。航空関係のことや、世界や日本の情勢を把握しておくためです。そうすることで、何だか前向きに日々が過ぎていく感じが、人にもやさしく接することができるようになったのです。不思議なものです。自分の気持方の持ちようでいろいろなことが変わっていくのですから。

高田 在職中に試験を受けたのですか。

野口 そうです。なろうと考えはじめ、半年くらいで試験だから、一回目は様子見て、一度失敗したくらいであきらめないぞと、自分に言い聞かせて受験しました。土日も仕事がある会社だったので、うまく休みが取れて、会社には分らずに試験に行くことができました。

高田 スチュワーデスの試験はいかがですか。

野口 私の求めていた緊張感と刺激がありすぎるくらいでした。実際には、良いことも悪いこともあ

ると、良い仕事をしている、人の役に立っていると感じられます。そんな方が「こんな体でもいろんな所へ行って、いろんなものを見ているのよ」と力強く話されていると、「こっちはもう勇気付けられず、当たり前だと思っていること、当たり前ではない」という感謝の気持ちも生まれます。そういうことに気づくことができる仕事です。

高田 やりがいのある仕事ですね。

野口 そうですね。仕事について3年半になりましたが、春にチーフパーサーになる資格を取ったので、チーフパーサーとは、客室で起こったことは全て責任を持つという立場で、機長・副操縦士・チーフパーサーという位置取りになります。いかに便をお客様にあった便にするか。例えばビジネスマンばかりの便ではワイワイがやがやできません。快適な空間というのは、その便、その客層によって違うのです。それをみんなで力を合わせて、その空間を作った結果、喜んで降りていただけたり、やはり満足感があります。その意味で、日々、反省の繰り返しで、全く同じ便は存在しないのです。

小中 憧れもそうですが、修学旅行に飛行機を利用するケースがありますが、高校生の印象はいかがですか。

野口 空港で、集合している風景を見ていて、あの子たちが乗ってくるのだな、パワーを吸い取られないようにしくちゃと気合いが入ります。安全優先ですから、伝えるべきことは伝えますが、高校生の高揚した気持ちも理解できますので、空気を壊さないように努めます。恋慕の相談をする女の子や、ラフレターをくれた男の子など、自分の高校時代を思い出したりします。飛行機は、そんな様々な人たちの出会いの場です。仕事としてこなすことのできるのですが、敢えて出会うと考えると、思っています。偶然だけど、必然の出会いなのです。せっかくだから一緒に楽しもうと思っただけです。

高田 スチュワーデスのイメージとのギャップは感じますか。

野口 1日最高4便に勤務します。体力的にも精神的にもハードで、タフでなければ動けません。便移動の時に、お弁当を3分くらいで食へ、「はい次行きます。涼しい顔してくたさい」とという具合です。例えば私は、明日、東京から沖縄、沖縄から各



古屋、名古屋から札幌、札幌から名古屋へ戻って1日が終わります。しかしお客様にとっては、1年に一度、何年かに一度かもしれない飛行機ですから、「お客様にとって」を常に考えています。

高田 仕事のローテーションは決まっていますか。

野口 私は明日から、2泊3日で仕事をします。そして2日休んで、また3日働き、1日休むというパターンを繰り返します。とにかく自己管理が大切です。自分が体調を壊したために、その飛行機が飛ばないこともあるのですから。プロ意識が問われます。遅刻などもゆるみません。

小中 最後に高校時代の思い出をお聞かせください。

野口 とにかくクラブの思い出だけです。ソフトテニス部に所属していましたが、真っ黒になって、テニスばかりやっていました。「どうしてこんなにまで」と考えたときもありましたが、今こうして、学校に戻ってきて、テニスコートと高校生を見ていると、夢中になれる空間と環境があったことに感謝しています。そういう気持ちは中学や大学にはなく、この備前だけあります。そして顧問の三國先生にも、色々なものを伝えていただきましたから、だからこうして高校に戻ってこようという気持ちになるのです。

野口 裕子さん (9期生)

- 1972 埼玉県川口市生まれ
- 1988 川口市立安行東中学校卒業
- 1991 獨協埼玉高等学校卒業
- 1995 獨協大学外国語学部英語学科卒業
- 1995 一般企業入社
- 1996 全日本空輸入社

気分を言われて、飛行機から降りられると何とも言えない気分になります。相手の方もそうですが、私とも同じなのです。人と接する中で落ち込むこともあり。逆に、普段接することの少ない、体の不自由な方などが、お金を貯めて、夢を持って飛行機に乗られ

教員座談会 (第二回)

今回二期生の担任をもたれた先生方を中心に座談会という話が同窓会から出ました。目的は二つあって、一つは前回がスタート時の先生方にお願ひしたので今回は二期の先生方にお願ひしたいということ、もう一つは同窓会総会・懇親会で他の期に比べて二期の方の集まりがあまり芳しくないの、この座談会を通して二期の方々呼びかけができたということとです。

司会 まず最初に、二期生はどのような学年でしたか。

加倉井 本当は七クラスでやる予定だったんですが、一クラスを四十八名にして、全体で六クラスに減らして始める事に急遽変更になったんですよ。この学年というのは、一期生の元気な生徒と、三期生の男女共学に挟まれているから、とっても寂しい集団だったんじゃないかな。

司会 やっぱり元気があったのは一期ですか？

加倉井 一期の方が元気があったよ。だって玉山(現同窓会会長)みたいなのがいたわけだから。(笑)二期というのはこうやって考えてみても、すごい元気だというのはいかなかったんじゃないかな。でも結構まじめでできる生徒もいたね。

大山 沢田(元本校非常勤講師)とか。

加倉井 だから、なんていうのかな。集団としてはね、一期の元気に押されているから、元気の良さが見えなかったけれど、逆に見てみると、結構悪さをしたのはいるんだよね。(笑)

司会 思い出に残っている当時の出来事とかあったらお願いします。

加倉井 入学の写真を見てみると皆坊ちゃん刈りなんだけど、この後高校に入ってきてからの頃流行ったのがパーマなのね。あの頃はね、学習の指導じゃなくて生活の指導が多かったよ。

板橋 器物破損とか。

司会 ガラスとかですか。

加倉井 いや、白い壁にスプレーで書いたんだ。「皆殺し」とか「組」とか。

生徒の集団としてはよく勉強するグループと、全然勉強しないグループとのすごい差があったと思いますよ。この学年から学校の先生になった人は結構いるんじゃないかな。沢田・山岡・清水…。

根岸 渋谷・宮岸もやっていたよ。

加倉井 だから、勉強する生徒は勉強して、悪い事する生徒は悪い事して、極めてはっきりしていた時代かな。運動能力もかなり高かったんじゃないかな。こうやってさっと見てみると。

それからこの頃はバイクの問題が結構大変だったんですよ。バイクの免許はみんな取りたがるから。たとえばそれをチェックするとかね。

大山 我々は若かったんですよ。三十三〜五ぐらいだったから。子供達も年齢が近いということ、結構楽しくやりながらね。

根岸 激しくやっていたよ。(笑)楽しくやりながら激しくね。

加倉井 進級に関しても結構厳しかったんですよ。この頃はね。今でも覚えているけど、この頃十点法でやっていたんで、英語なんかは確か三十三点取らないとセーフじゃなかった。今三十点そこそこでしょう。だから、教員も若かったし、相当厳しいことを要求してね。

大山 要求は厳しかったと思うよ。

根岸 だから、それだけついてきた生徒は大したもんだよね。なかなか良い玉をいっぱい預かっていたと思うよ。良く騙して良く光っていた子もいっぱいいたよ。授業なんか難しい話とか、結構我々も若くて勉強してたからいろいろ話をしたんだけど、ちゃんと興味深く聞いてくれたものね。今難しいとか学問的な話をすると早く違



う話をしてほしいという感じでね、そんな面倒くさい話はないでくれと全然興味持たないという感じだからね。知的な関心は高かったような気がするなあ。

司会 林間学校・修学旅行はいかがでしたか。

加倉井 林間ね、一年目が甲子山の登山だったので、あまりにもコースが悪かったり、教員がはしぎすぎた面もあったんで。(第一回教員座談会参照)。一年目の林間学校で服装を自由にしたからね、アロハシャツみたいな着てきてチンピラの通足みたいになってしまったので、二年目の林間学校では引き締めに入って全てジャージ。(笑)

それでね、一期生の時は無断外出でビールを飲まされてしまったので、二期生の時はそれはいけないということ、相当厳しくやっていたんですけど、今でも覚えているけど、無断外出したやつらを十人ぐらい捕まえてね、研修所のロビーに並べて頭をバンバンと拳固して。(笑)登山も朝十時に登り始めて、赤面山を降りたのは四時半。そのぐら

いのコースだったですよ。

板橋 あれは結構ハードでしたよ。

加倉井 それも全員だったでしょう。だから良かったんじゃないかな。一期の軟弱なのに比べれば相当ね。

司会 一期は軟弱でしたか。

加倉井 だって、デレデレと上がってすぐ降りるくらい。(笑)何の景色も見えなかったよ。

板橋 展望が無いんだよね。頂上いっててもね、キノコがはえて何の展望も無い。(笑)ただ上がっただけ。

司会 脱落した生徒とかいませんか？

加倉井 生徒もいたし、教員もいた。

司会 教員も脱落したんですか。

加倉井 本人に聞いてよ。(伊藤先生に全員の視線が集中・笑)

伊藤 あれは高松をおぶって降りてきたからだよ。三百メートルくらい。

根岸 すごいカッコつけてきてね。お母さんに全部そろえてもらって、チロリアンハットまで買ってね、キャラバンシューズにニッカポッカにチヨツキも着てね。(笑)写真残っているから。

伊藤 雨がすこかったですね。

加倉井 雷が鳴ってね、雨がザーザー降ってね。スキー場だから良い斜面でしょ。赤土なのでツルツル滑ってね。

加倉井 修学旅行はどうだったかな。どこへ行ったかな。

板橋 宮島に行ったんじゃないかな。宮島に泊まって、岩国行って、福島。

根岸 瀬戸内海行って、クルージングしたんだ。

加倉井 あの時三泊四日じゃないか。

大山 初年度とは違いますね。初年度は山口と萩。寒くてなあ。

板橋 酒が出たんだよ。

司会 生徒から酒・タバコが出たということですか。

加倉井 教員も生徒が絶対やるっていうのわか



つてたから、見回りもそんなに厳しくなかったけど。生徒の方はやって、ドンがいるから。(笑)

根岸 バスガイドの腰にしがみついたってのがいたじゃない。

大山 それは小東さんだろ。(笑)

根岸 腰をぐっと抱えたような。

加倉井 誰だっけ？

根岸 それでガイドさんが泣いちゃってさ。

加倉井 それで私がガイドさんのところに謝りに行ったんだよ。誰だったか覚えてないなあ。

板橋 あと救でね、連泊するとホテルの風呂場が男女変わるんだよね。最初男湯に入っていて、翌日女湯の方に入ったら本当に女風呂でさあ。(笑)

鏡の前に立ってる人がどうも男の形じゃないんだよ。よく見たら女の人だった。

司会 それでどうしたんですか？

板橋 飛び出してきた。(笑)

司会 じゃあ、あとは当時の先生方のことをお聞きできれば。

根岸 我々は一期の担任と違うから。みんな堅気だから。(笑) まじめな学年だったな。

加倉井 でも結構、学年会が終わったら一杯やるっていうのは多かったんじゃないかな。必ず一杯やっていたよね。

板橋 飲み会は結構多かったね。

加倉井 飲み会やってね、情報交換してたよね。飲み過ぎたことも多かったけど。帰れなくなっちゃうとか。

根岸 それは加倉井さんだけだよ。(笑) 伊藤さん結婚したの、あの頃だったっけ。よく春日部の方に一緒に行って冷やかしてたから。

伊藤 そうそう。井原さんが結婚したの、この後ですよ。

加倉井 みんな若いですよ。井原さんなんか盗み聞きやってたんだから。(この後、盗み聞きの実態が赤裸々に...)

板橋 井原さんの所によく泊まったよ。帰れなくなつて、ノミ・ダニがすごくてね。朝起きると中かゆいんだ。

加倉井 太田先生はあの頃元気だったよね。パシパシやってたね。

大山 体育祭でもな。気合いいれてやってたよ。

板橋 太田先生は生徒から人気あったよ。ナイフ・ガイって。

加倉井 さっぱりしてるしね。依田先生は生徒と年が近かったね。修学旅行なんて生徒と間違われたんじゃないかな。

司会 進路などはどうでしたか。

大山 獨協大学の英語学科の定員枠ができたのは二期からなんです。一期は別になかった。基準をクリアしている子は英語学科にみんな進んだんだけど、みんな引っかけちゃってね。(笑)

司会 当時は学年全体の何割くらい獨協に進んだんですか。

大山 七割くらいが資格を持って、六割五分くらいかな。この頃は大学に行く人がだーっとうな

ぎ登り上がったっている時だから、なかなか外から大学に入れない時期だったんですよ。そこで各学科が進学を目指して堆積してた年だったから、昭和五十五年あたりは。

加倉井 そうですね。獨協が人気が出てきた頃だしね。まあ、勉強ができたのは医歯薬に行ったんでしよう。

加倉井 でも、ぜひ二期生は同窓会に来てほしいですよ。

根岸 こんな話ばかりじゃ、ますます来ないんじゃないか。(笑)

司会 何か最後に一言ずつ、二期生へのメッセージを。

根岸 やっぱね、入ったときはともかくね、本当に優秀な子達が何人もいたんだよね。勉強の意味でもね。勉強の方で優秀じゃないのも結構いたけど。一期生と比べるというのもあるけど、まあ一期生がやりすぎてから、この子達も元氣といえは元氣だったよね。やっぱ懐かしい顔がいるよね。この間、塚田に会ったんだよ。ずいぶんしっかりした体つきになって立派な大人になっているよね。今社会の中堅になっているでしょう、この子達は。どんな風になっているのか、会ってみたいなあ。

加倉井 二年目だったので、一年目の元氣な生徒と、三年目の男女共学に挟まれてね、うまく自立たなかったのかもしれないけど。ざーっと見てみると運動能力高かったのいっぱいいるし、今考えてもやっぱり勉強してね、優秀な成績残して自分の進路をばっちり取ったっていう生徒もいましたね。

板橋 こうやって写真見てみると、その当時のことがよく目の前によみがえってくるよ。当時の子達っていうのは、結構自分を持っていたのが多かったよね。それなりに自分で主張するところは主張したし、自分の進路とかについてもそれに向かって地道に努力したりね、あるいは脳力でバツとやってみたり、いろんな子がいたっていう印象が残っていますね。ぜひみんなの活躍しているところを会いたいの、同窓会を再会の場として、お互い同じところで勉強し教えたということ、再会したいという気持ちは強いですね。

司会 それでは、二期生が懇親会にたくさん来てくれることを願いつつ、座談会を終わりにしましょう。本日はお忙しいところ、長い時間ありがとうございました。

たしね。私が何回も拳固を挙げたっていう生徒もいるしね。ですから、そういう過去の事は水に流して(笑) 学校に来てほしいと考えております。

大山 途中から三年目に入ったんで、あんまりなじみはなかったんですけど。何かね、一生懸命「勉強せえ、勉強せえ」ばかり言っていたような気がしますね。それに比べてくれた生徒もいましたし。僕が十年別なところでやってきて、二年目だったんで、そういう意味では相当良い集団だな。だって前の所では生活指導で結構かかってたから。優秀な生徒がたくさんいたっていうような気持ちでとらえてますけど。だからぜひお会いしたいですね。

参加者

板橋 隆 先生 (昭和五十五年、二期三年三組担任)

伊藤 栄一先生 (昭和五十六年、二期三年一組担任)

大山 勉 先生 (昭和五十六年、二期三年五組担任)

加倉井 憲一先生 (昭和五十五年、二期学年主任)

根岸 隆 先生 (昭和五十六年、二期三年六組担任)

森脇 淳 (五期生、平成八年)

司会

参加者

板橋 隆 先生 (昭和五十五年、二期三年三組担任)

伊藤 栄一先生 (昭和五十六年、二期三年一組担任)

大山 勉 先生 (昭和五十六年、二期三年五組担任)

加倉井 憲一先生 (昭和五十五年、二期学年主任)

根岸 隆 先生 (昭和五十六年、二期三年六組担任)

森脇 淳 (五期生、平成八年)

司会

参加者

板橋 隆 先生 (昭和五十五年、二期三年三組担任)

伊藤 栄一先生 (昭和五十六年、二期三年一組担任)

大山 勉 先生 (昭和五十六年、二期三年五組担任)

加倉井 憲一先生 (昭和五十五年、二期学年主任)

根岸 隆 先生 (昭和五十六年、二期三年六組担任)

森脇 淳 (五期生、平成八年)

タイムカプセル

あれから10年

あれは10年前の1990年9月30日のこと。第11回蛙鳴祭2日目の夕方、当時の生徒会関係者の手によって高校の中庭の片隅に「タイムカプセル」が埋められた。そして、今年の蛙鳴祭でタイムカプセルは10年の眠りから覚める。

「タイムカプセル」に手紙を入れたのは、当時在学していた9・10・11期生（H3・4・5年卒）。安達幸男さん（9期生徒会長）、松本笑子さん（10期生徒会長）を中心とする生徒会が中心となつてこの企画を進め、約束の年である2000年、再びこのメンバーによって「タイムカプセル」は掘り起こされることとなった。当時の生徒会関係者に9・10・

11期生も知らない。「タイムカプセル」の実態をインタビューした。

Q. なぜ、「タイムカプセル」を埋めようということになったのですか？

A. 安達会長の発案なのですが、本人もあまり詳しいことは覚えていないようです（笑）。ただ、「10年後の2000年に向けて何か残しておこう！」「21世紀に何かメッセージを！」という感じだったと思います。よく考えてみたら2000年はまだ20世紀なんですけど（笑）。

Q. 「タイムカプセル」の中には何が入っているのですか？

A. みなさんに書いていただいた手紙です。希望者には当時のクラス写真が同封されているはず。です。（ちよつと自信がないようだ。）自分で自分宛に書いた手紙、友だちに書いてもらった手紙、さまざまでしたよ。

Q. 「タイムカプセル」はどのような埋められているのですか？

A. 手紙を入れた缶をプラスチックの衣装ケースに入れ、しっかりパテで隙間を埋めてから、穴に埋めました。穴は蛙鳴祭の2・3日前から掘り始め、腰のあたりまで掘ってあったのですが、蛙鳴祭当日のものですごい大雨で水浸し。「タイムカプセル」を埋めようとしたらチャブチャブ浮いていました。

後日、埋めた場所に苗木を植えて、場所がわかるようにしてあります。

Q. 水浸し……。タイムカプセルは大丈夫なのでしょうか？

A. そればかりは、開けてみてのお楽しみです。

Q. 掘り起こしたあとの穴はどうするのですか？

A. 現在在学している19・20・21期生が、10年後に向けて「タイムカプセル」を埋めることになりました。ちよつとした冗談で始まった企画が後輩へも引き継がれていくことになりました。

Q. それでは最後に、9・10・11期生みなさんにメッセージをお願いします。

A. あつと言つ間にあれから10年経ってしまいました。タイムカプセルを埋め

TIME CAPSULE

タイムカプセル 掘り起こし作業

2000年9月24日(日)12時から

獨協埼玉高校中庭（美術室裏）に行きます。当日来ていただいた9・10・11期生には手紙をお渡しいたします。また、来られなかった方の手紙は、後日、発送いたします。

平成12年度予算（案）

(収入)	18期生終身会費	3,680,000
	H11年度より繰越金	5,227,430
	合計	8,907,430
(支出)	会報費	1,500,000
	通信費	100,000
	総会予備費	300,000
	事務費	200,000
	慶弔費	100,000
	体育館ステージ協賛金	800,000
	雑費	50,000
	予備費	5,857,430
	合計	8,907,430

平成11年度同窓会決算書

(収入)	既卒者終身会費（1万円×396人）	3,960,000
	利息	806
	※第2回同窓会総会懇親会費余剰金	157,019
	平成10年度より繰越金	2,268,345
	合計	6,386,170
(支出)	会報費	1,120,830
	通信費	37,490
	雑費（残高証明書代）	420
	次年度繰越金	5,227,430
	合計	6,386,170

総会報告

(収入)	総会会費（5千円×124人）	716,000
	（3千円×32人）	
	祝金	70,000
	合計	786,000
(支出)	総会費用	628,981
	※第2回同窓会総会懇親会余剰金	157,019
	合計	786,000



吹奏楽部はもともと多くの卒業生を出しているクラブである。その割にはどこか地味でひっそりとした雰囲気を感じていて、おとなしい女子の多い状況を考えれば大いに納得するところだが、本当はもっと脚光を浴びても良いクラブであろう。

今ではコンクールにも出場していないが、かつては高校四部、つまり人数制限なしという当時は最大の激戦の部で金賞を受賞している。金賞を受けたのは四十数校中、二校だけだったそうである。「四部」というのが、体育系の先生方には理解されず、部員達はくやしき思いをしたと伝えられている。

「コンクールには、勝てる演奏というものがある。しかし音楽は、汚れた響きを要求する事も多い。例えば、軍隊が進行する時のファンファーレは、美しく吹

奏中に顔を真赤にして自分達に説明した言葉である。「コンクールには、勝てる演奏というものがある。しかし音楽は、汚れた響きを要求する事も多い。例えば、軍隊が進行する時のファンファーレは、美しく吹

ところで、コンクールに出場しなくなったのは「音楽で競争しない」という事らしいが、どこか理由がきれいな過ぎる様な気がしている。先生に叱られそうだが、本当の理由は語学研修でトップ奏者のほとんどが、日本にいなくなってしまふという事だろうと私は考えている。毎年とは言わないが、私が響きを聴く限り、コンクールに出場すればかなりのところまで行くだろうと思われた時が、何回かあった。コンクール常勝の学校の生徒が、文化祭の演奏を聴いて、うなづいたというのを、私も友人から聞いた事がある。



第1回 あの時 かつしき

思い出の「吹奏楽部」

事情を特に卒業生は、深く考えなければならぬだろう。最新の情報によると、先生は五十を二つばかり過ぎてすっかりカドが取れてしままい温厚になってしまわれたそうである。

「あの時」は、勝てる演奏というものがあつた。先生は先生と生徒が共に舞台に立つというある意味、異常なクラブであるので先生の事を嫌がっている卒業生もいるかもしれない。先生もその事は十分に承知しているらしく、何故か表に出られることがない。その辺の

いてはいけない。むしろ音程を悪く吹いた方が真の雰囲気が出る。それこそが音楽というものののだ。」

本当に先生らしいと感じるが、当時の私はまだこの言葉が理解できなかったと思う。現在に至り少しづつ理解できるようになったが、実は先生は大変な人物なかもしれない。先輩達の中には、先生を非常に尊敬している方々も多く存在するらしいが、素直になすける様になった。

先生流に：「期待しています。」

吹奏楽部卒業生 S・U

<http://www.alles.or.jp/~kougo/dokkyohim>

まあ吹奏楽部というのは、先生と生徒が共に舞台に立つというある意味、異常なクラブであるので先生の事を嫌がっている卒業生もいるかもしれない。先生もその事は十分に承知しているらしく、何故か表に出られることがない。その辺の事情を特に卒業生は、深く考えなければならぬだろう。

全く怒ることのない毎日だそうである。どこかさみしいと感じるのは私だけではないと思うが、何回か入院されたことのある先生だから、それはそれで良いことなのかもしれない。お見舞に行つた部員達の態度があまりに良く、今時こんな立派な女子高生がいるのかと、部長さんの涙をさそつたのは有名な話であるが、先生あつての吹奏楽部であるし、いつまでもお元気に活躍される事を祈っている。

先生の偉大さは卒業して初めて分かるもの。社会人になってさらに感じ入るものであるから、現役の生徒の皆さんに希望するのは、先生を本当に大切にしたいという事でしょうか。きびしい先輩から言わせてもらえば、最近のサウンドはどこかつめたい響きがする時もあるので気をつけて下さいという事です。百三十人もの部員を擁する、私達卒業生もほこれる素晴らしいクラブですので、あえて注意をしました。生徒の十人に一人以上が部員だなんてうれしい限りです。OB・OGの皆さんも後輩達を応援しましょう。

九月二十三・二十四日の文化祭をはじめ、二〇〇一年三月二十七日の第十二回定期演奏会には必ず駆けつけようではありませんか。

Information

第3回 同窓会総会のお知らせ

日時 平成12年10月1日(日) 12時より

場所 獨協埼玉高等学校

総会／視聴覚室 懇親会／食堂

会費5,000円(学生3,000円) 当日会場にて受付いたします。

同窓会 役員人事紹介

理事

会長	玉山 栄一	(1)
副会長	永島 健次	(3)
会 計	瀬戸てるみ	(8)
監 査	森脇 淳	(5)
	大岩 幸代	(5)
	高田 晶子	(10)
	小平 茂	(5)

幹 事 (括弧内数字は卒業期)

稲熊秀雄	水谷 功	(1)
吉本博之	田川雄三	(3)
奥野真明	酒井直樹	(6)
井上佐友子	水口将亘	(8)
本木美加子	伊勢陽子	(9)
布施 崇	坂井陽介	(10)
重富美希	金久保佳代	(12)
桜井広仁	金子純平	(13)
南谷和孝	玉越健一	(14)
石田大介	田中弓子	(15)
田ノ下紀子	永井 穂	(15)
植原浩美	坂本育美	(18)
関淳一郎	内田青児	(18)
浜野ゆかり		(18)

同窓会からのお願い

① 同窓会運営に関するご意見がありましたら、右記の理事もしくは幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願ひします。

② 総会への積極的参加をお願いします。

③ 同窓生で同窓会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいましたら、同封のハガキにその方の連絡先を記入し、ご返信ください。後で同窓会

会報等を郵送いたします。ご協力よろしくお願ひいたします。

④ 住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。

※最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報を聞き出そうとしている団体があるようです。本同窓会では、電話での問い合わせは一切しておりませんので、ご注意ください。

会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願ひいたします。

2000 蛙鳴祭のお知らせ

今年のテーマ

獨協日和

平成12年 9月23・24日

土 日

獨協埼玉高等学校にて

今年は同窓会専用の部屋を設けてみなさんをお待ちしておりますぜひお立ち寄りください。